

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

②施設・事業所情報

名称：辻堂すきっぷ保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：鈴木 文	定員（利用人数）： 60名
所在地：藤沢市辻堂6-14-5	
TEL：0466-86-7357	ホームページ：https://www.skip-hoikuen.com/tsujidou/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2017年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社俊英館	
職員数	常勤職員： 12名 非常勤職員 9名
専門職員	（専門職の名称） 名
	保育士 18名
	看護師 1名
施設・設備 の概要	（居室数）
	（設備等） 保育室5 事務室、調理室、ウッドデッキ

③理念・基本方針

◇企業理念 『顧客満足の追及と参加者の自己実現』
◇企業モットー 『一人ひとりを大切に』
◇保育理念 「地域と手を取り合い、子ども一人ひとりを暖かな眼差しで見守り育てていける保育環境をつくる」
◇mission 「子ども一人ひとりの意思を尊重し、自主性や主体性を持った意欲溢れる子どもを育てる」
◇バリュー 「全職員が全園児のことを把握し 満たされるまで愛情を注ぐ」
◇保育方針 「一人ひとりの育つかに“働きかけ”、“信じる”“待つ”ことで花開かせる保育」
◇保育目標 ●自分で考え、表現できる子ども ●自分を大切にし、他者も大切にできる子ども ●丈夫でしなやかな身体を持ち、意欲的に活動できる子ども

④施設・事業所の特徴的な取組

- 保育理念や保育方針などにに基づき、「子ども一人ひとりの意思を尊重し、自主性や主体性を持った意欲溢れる子どもを育てる」ことを目指している。5歳児クラスは「ぞう会議」を月に数回行い、自分のやりたいこと、クラスの中の問題など、議題を決めて話し合いを行っている。最初は自分の意見が言えず、他の子どもの意見に同調していたが、だんだん自分の意見が言えるようになるなど、一人ひとりの子どもの成長を感じている。
- クラス単位の月案だけでなく、0歳から5歳まですべての子どもに対し「個別月案」を作成している。「個別月案」は、すべての子どもの発達に合わせた目標を立て、一人ひとりの発達の状況を確認している。全クラス、「個別月案」作成している。
- 各クラスの保護者代表1名と園長、主任、第三者委員の自治会長と主任児童委員で構成する運営委員会を、年2回開催して、行事や子どもたちの日々の遊びの姿を伝え、取り組みの内容について意見をもらっている。運営委員会の開催前には、保護者全員を対象にしてアンケート調査を実施し、意見を集計して検討している。保護者との連携を密に取り、子どもたちの保育にあたっている。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2021年6月24日（契約日）～ 2022年2月9日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（年度）

⑥総評

- ◇事業所の特色や努力、工夫していること、事業所が課題と考えていること等
- 辻堂すきっぷ保育園は、開園して5年目の保育園で、0～5歳児各クラス10名前後のアットホームな園である。保育士がすべての子どもを把握して、「子ども一人ひとりを大切に」にした保育を実践している。
- 保育室の入り口や廊下のドアは、開閉の際に子どもが手を挟む危険性があるため、下部に隙間のあるドアを使用し、安全に配慮している。全館に床暖房を設置し、子どもたちは裸足で過ごし、保育士も危険防止のため上履きは使用していない。食事の場所や午睡時のコット（簡易ベッド）の場所を固定し、子どもたちが安心感を持つことができるようにしている。一人ひとりが落ち着ける場所を確保できるよう、絵本コーナーやマットなど、過ごしやすい環境を作っている。
- 生活面でのトイレ、着替えなどは、子どもが絵を描いた保育士手作りの衝立を活用して、プライバシーに配慮している。子どもたちが安心して生活できるよう、乳児クラスは担当制を取り入れ、食事や排泄など、同じ保育士が関わるようにしている。2歳児からはクラス担当制で、それぞれが発達に応じて生活動作が自主的に行えるよう「最後まで見守ること」を意識し、日々の積み重ねを丁寧に行っていくことで、基本的な生活習慣が身に付くようにしている。
- 0歳児の保育では、一人ひとりの生活リズムを把握し、安心して遊んで、食べて、眠ることができる環境を設定している。信頼関係を築くことを目標とし、同じ保育士が1対1で継続して関わることで、安心感が持てるようにしている。喃語（乳児が発する意味のない声）や仕草で思いを汲み取り、丁寧に応答的な関わりを行うことを大切にしている。
- 3歳未満児の保育では、1歳児までは担当制をとり、2歳児は11人のクラスを半分に分け、少人数で食事や着替え、手洗いなど、きめ細やかに目が届くよう関わっ

ている、子どものやりたい気持ちに寄り添いながら、子どもの状態に応じ、見守ったり必要な援助を行いながら意欲につなげ、最後まで見届けるようにしている。友だちとの関係を深められるよう、お互いの気持ちを伝えたり、必要な言葉や関わり方を知らせている。

○3歳以上児の保育では、3歳児は、前期は単独のクラスとし、一人ひとりに目を向け、生活習慣の獲得に丁寧に関わる時期としている。後期には、3、4歳児合同クラスとし、5歳児クラスが就学に向け単独クラスとして活動している。また5歳児クラスは、集団でいろいろなものを作り上げていく中で、互いに意見を出し合ったり、友だちのことを考える機会にもなり、仲間意識を強めている。3、4、5歳児合同の異年齢保育の中では、恐竜の好きな子ども同士など、友だちの輪が広がっていくことがある。また、年上の子どもは下の子どもの面倒を見たり、下の子どもはあこがれをもって一緒にやろうとしたり、お互いが刺激し合っている。

○「健康管理マニュアル」を整備している。登園時の視診や体温、健康状態は、「観察チェックボード」に記入している。毎月の「保健だより」では、流行している病気や感染症など、健康に関する情報を伝えている。乳幼児突然死症候群（SIDS）対策として、午睡の際には、子どもの顔が確認できる程度の照明にし、うつぶせ寝になりがちな子どもに対しては個別に保護者に伝えている。また0歳児は5分毎、1歳児は10分毎、2歳児は15分毎、3歳以上児は30分毎に呼吸確認を行い記録を付けている。

○各クラス担任が食育計画を交代で立て、年齢に合った取り組みを楽しんでいる。3歳以上児クラスではうどん作りや味噌作りの体験をしている。月々の行事食を大切にし、七夕には天の川をイメージしたそうめん、クリスマスにはホットケーキにデコレーションをしたりして、季節に合った食事を楽しんでいる。子どもの誕生日を「大切な日」として、年長児が園内放送で誕生者を紹介し、誕生日プレートとして、うさぎの形に型抜きされたご飯を盛り付けるなど、当日の給食メニューをアレンジしたものを提供して、園全体でお祝いをしている。

○職員一人ひとりの保育の質が向上するよう、園長が職員個々の研修計画を策定している。職員自身の保育の目標や現在の姿、目指す像などを、「振り返りシート」で確認し、園長との個人面談につなげている。園長との個人面談は、今年度は4回実施している。園長との個人面談では、「子どもを大事にすること」を中心に置き、現在の状況や疑問点を確認しながら、職員が働きやすさとやりがい追求できるようにしている。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

開園して以来初めて第三者評価を受審させて頂き、運営や保育内容に関して振り返り、現状や具体的な課題が見つかるよい機会となりました。

引き続き評価に基づいた話し合いや学び合いの時間を作り、継続的な保育の質の向上に向けた取り組みを行っていきたくです。合わせて働きやすい職場作りに向けて職員の就業状況を把握し、具体的な取り組みを検討し、体制を整えていきたくと思います。

保護者アンケートでは多くの方にご協力頂き、肯定的なご意見も頂けたことに感謝の思いでいっぱいです。改善内容についても記入してくださっているので、ご指摘いただいた内容については早急に改善を進めたくと思います。

これからも、子ども達一人ひとりを大切にし、子ども達が健やかに成長して、保護者の方に安心して頂き、地域に愛される保育園を目指して今後も努力していきたくと思います。

⑧第三者評価結果
別紙2のとおり